

## 日本における自動車の外部費用の推計

主査 谷下 雅義（中央大学教授）

本プロジェクトは当初、これまで2年間の欧州における調査研究報告書の翻訳を踏まえ、影響経路アプローチ（Impact Pathway Approach）に基づいて日本における外部費用を推定することを目的としていたが、十分なデータおよび研究時間を設けることができなかつたため達成できず、①昨年9月に欧州議会で採択された EurovignetteIII 以降の動きや Handbook of Transport Economics における欧米の外部費用に関する整理と、②日本において影響経路アプローチに基づいた推定のための基本的な情報整理を行った。

前者については、EurovignetteIII の内容、イギリスの動向そして欧米の数値の比較を行った。

後者については、大気汚染・騒音・気候変動および交通事故について検討を行った。2010年度に行った騒音に関する松井先生（京都大学）をお招きした研究会に続き、2011年度は、大気汚染について島正之先生（兵庫県立医科大学）また気候変動について松橋啓介氏（国立環境研究所）をお招きして研究会を行った。

環境に関する影響経路アプローチは、暴露→生命・健康影響→貨幣化という手順で行われる。暴露と生命・健康影響の関係について、大気汚染および騒音について検討を行った。また生命・健康影響の貨幣化については、気候変動について回避費用の推定を行うとともに、大気汚染を中心に感度分析に関する情報を収集した。そして交通事故については、内閣府の推計では十分検討されていない外部費用の範囲について検討した。